

May 2, 2001

BSKTB

(703) 205-8000

0445-0300

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 5月26日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-156871

出 願 人

Applicant (s):

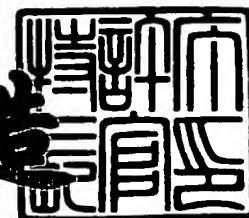
花王株式会社



2001年 1月12日

特 許 官
Commissioner
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3111470

【書類名】 特許願

【整理番号】 P00-212

【提出日】 平成12年 5月26日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 B65D 5/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

 【氏名】 川口 裕次

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

 【氏名】 藤田 実智昭

【特許出願人】

 【識別番号】 000000918

 【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100076532

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 羽鳥 修

【選任した代理人】

 【識別番号】 100101292

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 松嶋 善之

【選任した代理人】

 【識別番号】 100107205

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 前田 秀一

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 013398

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9902363

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 紙容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 紙を製函して形成され、洗剤、食品等の油分含有物を収容する紙容器において、

前記紙は、紙基材と、該紙基材の外側面を覆う印刷層と、該印刷層の外側面を覆う外側着色フィルムと、前記紙基材の内側面を覆う内側フィルムとからなる紙容器。

【請求項 2】 前記内側フィルムが着色フィルムである請求項 1 記載の紙容器。

【請求項 3】 前記着色フィルムが乳白色フィルムである請求項 1 又は 2 に記載の紙容器。

【請求項 4】 前記油分含有物がノニオン系界面活性剤を含む請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の紙容器。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【産業上の利用分野】

本発明は、紙を製函して形成され、洗剤、食品等の油分含有物を収容する紙容器に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

洗剤や食品等を収容する容器として紙容器が広く使用されている。これらの収容物は油分を含むものが多いため、紙容器は、耐油性を有する紙を製函して形成される。耐油性を有する紙として、紙容器の内側面となる紙基材の面にオレフィン系やポリエステル系のフィルムをラミネートしたりアルミ泊を貼り合わせた積層紙が用いられている。かかる従来の積層紙を用いた紙容器によれば、容器の内側面のラミネートフィルムによって紙基材への油分の侵入を効果的に遮断することができる。

【 0 0 0 3 】

しかしながら、従来の紙容器によれば、積層紙を切断加工した際の周縁部端面等における切り口が収容物と接触することにより、当該切り口から油分が紙基材にしみ出し、この油しみによって紙容器の外観を著しく損うという課題があった。

【0004】

本発明は、紙の切り口から収容物の油分が紙基材にしみ出した場合でも、油しみを目立たなくして外観を容易に保持できる紙容器の提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明は、紙を製函して形成され、洗剤、食品等の油分含有物を収容する紙容器において、前記紙は、紙基材と、該紙基材の外側面を覆う印刷層と、該印刷層の外側面を覆う外側着色フィルムと、前記紙基材の内側面を覆う内側フィルムとからなる紙容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0006】

上記記載における着色フィルムは、フィルムを構成する樹脂に体質顔料、無機顔料等の各種の顔料を添加することにより着色させたフィルムである。

【0007】

【発明の実施の形態】

本発明の好ましい実施形態に係る紙容器10は、図1に示すように、例えば粉状洗剤を収容する直方体形状の箱形容器である。紙容器10は、後述する構成の板紙11を所定の形状に切断加工して箱型形状に折り曲げると共に、接着剤により適宜箇所を接着することによって製函される。紙容器10は、容器本体12と該容器本体12の上面開口の一側縁部にヒンジ結合された蓋体13とからなり、蓋体13を開閉し、容器本体12に収容された粉状洗剤を取り出す。

【0008】

粉状洗剤は、ノニオン（非イオン）系界面活性剤を含むノニオン系洗剤であって油分を多く含んでいる。紙容器10は後述する板紙11によって形成されるため、その内側面は内側フィルム14により覆われて粉状洗剤中の油分の紙基材15への侵入を効果的に遮断する。一方、板紙11を切断加工した際の切り口にお

いては、紙基材 1 5 は内側フィルム 1 4 によって覆われることなくその端面が露出しており、この切り口が粉状洗剤と接触すると油分が紙基材 1 5 にしみ出して、当該紙基材 1 5 に広範囲にわたって油しみを発生させることになる。本実施形態によれば、以下の特有の構成を備える板紙 1 1 によって紙容器 1 0 を形成することにより、このような油しみによる外観の劣化を効果的に防止する。

【 0 0 0 9 】

すなわち、本実施形態によれば、図 2 示すように、板紙 1 1 は、紙基材 1 5 と、紙基材 1 5 の外側面を覆う印刷層 1 6 と、印刷層 1 6 の外側面を覆う外側フィルム 1 7 と、紙基材 1 5 の内側面を覆う内側フィルム 1 4 とによって構成される積層紙である。

【 0 0 1 0 】

紙基材 1 5 は、切断及び折り曲げ加工に適した厚さ 0. 3 ～ 1. 0 mm、坪量 1 9 0 ～ 6 0 0 g / m² の薄板状の紙からなる。

【 0 0 1 1 】

印刷層 1 6 は、オフセット印刷やグラビア印刷等により紙基材 1 5 の外側面の全面に各種の絵柄、文字等をベタ刷り印刷することによって形成される。

【 0 0 1 2 】

外側フィルム 1 7 は、着色フィルムであって、フィルムを構成するオレフィン系、ポリエステル系等の樹脂に各種の顔料を添加することにより形成され、例えば乳白色、黄色、黒色等に着色されたものである。この外側フィルム 1 7 は、その厚さが 1 2 ～ 8 0 μ m、好ましくは 2 0 μ m である。なお、着色フィルムは油分浸透による染みを一層目立ちにくくすることが可能であることから乳白色に着色することが好ましい。また、複数の色に着色しても良い。外側フィルム 1 7 は、印刷層 1 6 を覆ってラミネートされることにより紙基材 1 5 の外側面の全面に密着配置される。

【 0 0 1 3 】

内側フィルム 1 4 は、外側フィルム 1 7 と同様の着色フィルムであって、フィルムを構成するオレフィン系、ポリエステル系等の樹脂に各種の顔料を添加することにより形成され、例えば乳白色、黄色、黒色等に着色されたものである。な

お、内側フィルム 1 4 は、必ずしも着色フィルムである必要はなく、透明なフィルムであっても良いが、着色フィルムとすることにより、油分浸透による染みを目立ちにくくすることが可能になる。なお、内側フィルム 1 7 は、紙基材 1 5 を覆ってラミネートされることにより紙基材 1 5 の内側面の全面に密着配置される。

【 0 0 1 4 】

本実施形態の紙容器 1 0 によれば、板紙 1 1 の切り口を介して油分が紙基材 1 5 にしみ出し、油しみが発生した場合でも、紙基材 1 5 の外側面は印刷層 1 6、及び着色フィルムによる外側フィルム 1 7 を組み合わせたものによって覆われているので、紙基材 1 5 に発生した油しみを外側から目立たなくすること可能になり、これによって紙容器 1 0 の外観を良好な状態に容易に保持することができる。

【 0 0 1 5 】

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、紙容器は必ずしも直方体形状の箱形容器である必要はなく、その他の形状の紙容器とすることもできる。また、粉状洗剤の他、チョコレート、ドーナツ、フライドチキン等の食品等、油分を含有するその他の種々の収容物を収容することもできる。さらに、紙容器を構成する紙は必ずしも板紙である必要はない。

【 0 0 1 6 】

【実施例】

以下、実施例及び比較例により本発明の紙容器をさらに詳細に説明する。

【 0 0 1 7 】

【実施例 1 ～ 4】

上記実施形態の紙容器 1 0 と略同様の構成を有する実施例 1 ～ 4 の紙容器を、外側着色フィルム及び内側フィルムが表 1 に示すフィルムである板紙を用いて形成した。これらの紙容器にノニオン界面活性剤、ノニオン活性剤入り粉状洗剤、ドーナツ、フライドポテトを各々収容し、後述する実験方法により紙容器の外観の評価を行った。評価の結果を表 1 に示す。

【 0 0 1 8 】

〔比較例 1 ～ 6〕

上記実施形態の紙容器 1 0 と略同様の構成を有する比較例 1 の紙容器を、表 1 に示す層構成の板紙を用いて形成した。なお、比較例 1 の板紙は紙基材の外側面を印刷層により、内側面を透明フィルムにより各々覆って構成されている。比較例 1 の紙容器にノニオン界面剤、ノニオン活性剤入り粉状洗剤、ドーナツ、フライドポテトを各々収容し、後述する実験方法により紙容器の外観の評価を行った。評価の結果を表 1 に示す。

【 0 0 1 9 】

【表 1】

	(外側) ← 層 構 成 → (内側)	ノニオン 界面活性剤	ノニオン活性剤 入り粉末洗剤	ドーナツ	フライドポテト
比較例 1	印刷層／紙基材／透明フィルム	×	×	×	×
実 施 例	1 乳白色フィルム／印刷層／紙基材／透明フィルム	○	○	○	○
	2 乳白色フィルム／印刷層／紙基材／乳白色フィルム	◎	◎	◎	◎
	3 黄色フィルム／印刷層／紙基材／透明フィルム	○	○	○	○
	4 黒色フィルム／印刷層／紙基材／透明フィルム	○	○	○	○

【 0 0 2 0 】

なお、表 1 中における各フィルムは、オレフィン系樹脂からなる厚さ 2 0 μ m のフィルムとした。

【 0 0 2 1 】

〔紙容器の外観の評価〕

紙容器の外観を、以下に基準に従って評価した。

◎；容器の外側からも、内側からも、油染みが目立たない。

○；容器の外側からのみ油染みが目立たず、内側からみると油染みが目立つ。

×；容器の外側から油染みが目立つ。

【 0 0 2 2 】

表 1 及び表 2 に示す評価結果から、比較例 1 の紙容器は、油分含有物を収容した場合に、油しみの発生によって外観が損なわれるのに対し、実施例 1 ～ 4 の紙容器によれば、油分含有物を収容しても、その良好な外観を保持できることが判明する。

【 0 0 2 3 】

【発明の効果】

本発明の紙容器によれば、紙の切り口から収容物の油分が紙基材にしみ出した場合でも、油しみを目立たなくして外観を容易に保持することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態に係る紙容器の斜視図である。

【図 2】

板紙の層構成を説明する断面図である。

【符号の説明】

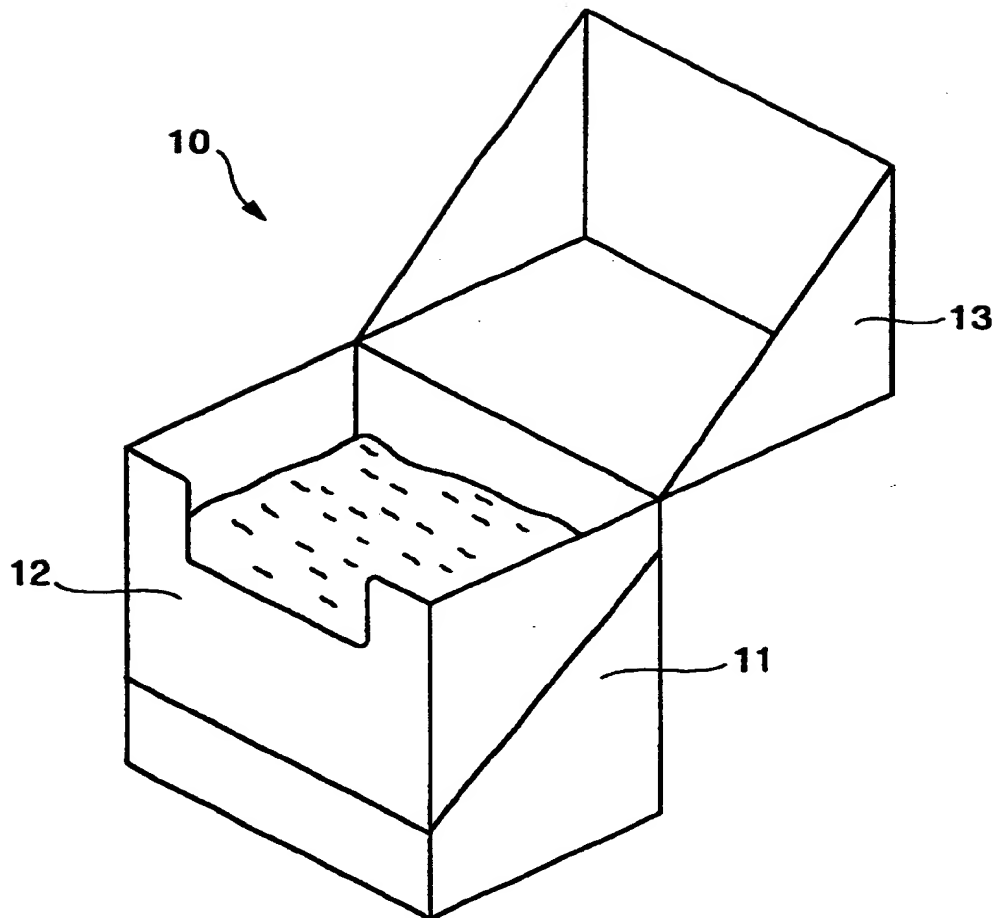
- 1 0 紙容器
- 1 1 板紙
- 1 2 容器本体
- 1 3 蓋体
- 1 4 内側フィルム
- 1 5 紙基材

1 6 印刷層

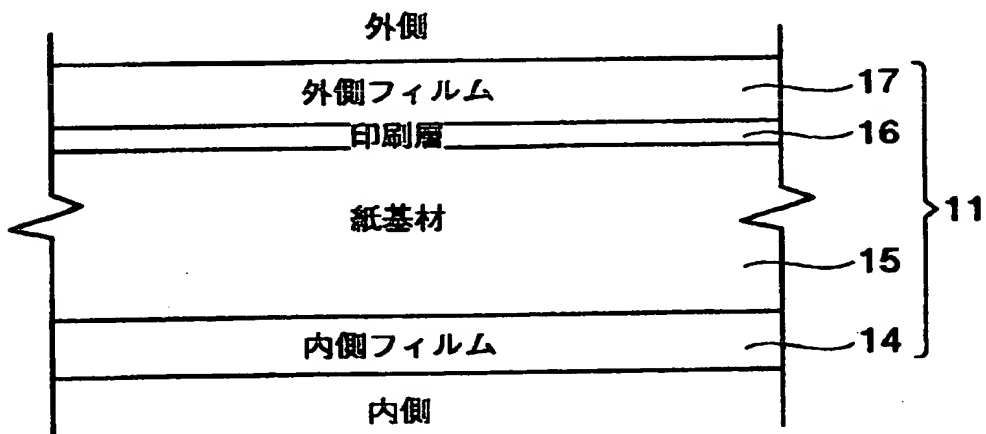
1 7 外側フィルム（外側着色フィルム）

【書類名】 図面

【図1】



【図2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 紙の切り口から収容物の油分が紙基材にしみ出した場合でも、油しみを目立たなくして外観を容易に保持できる紙容器を提供する。

【解決手段】 板紙 1 1 を製函して形成され、洗剤、食品等の油分含有物を収容する紙容器 1 0 において、板紙 1 1 は、紙基材 1 5 と、紙基材 1 5 の外側面を覆う印刷層 1 6 と、印刷層 1 6 の外側面を覆う外側着色フィルム 1 7 と、紙基材 1 5 の内側面を覆う内側フィルム 1 4 とからなる。内側フィルム 1 4 もまた着色フィルムであることが好ましい。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000918]

1. 変更年月日 1990年 8月24日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

氏 名 花王株式会社